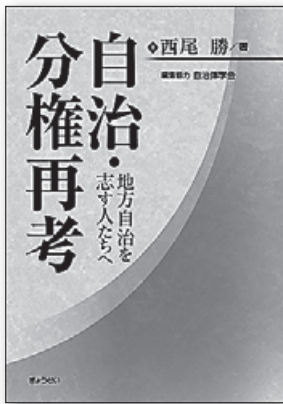


# 地方行財政入門

一橋大学大学院法学研究科 准教授 遠藤 啓

この冊子が皆さんの手元に届くのは新年度入り後ということで、新たに地方行政の世界に入られた方も、こちらのコーナーをご覧になっているのではないかと思います。そこで、今回は地方行政や、その運営を支える地方財政について、初学者の方でも学びやすい書籍をご紹介します。

まず、1冊目は、地方行政に関する書籍として、『自治・分権再考—地方自治を志す人たちへ』（西尾勝／著、ぎょうせい、2,420円）をご紹介します。著者は行政学の大家であり、地方分権推進委員会の委員として機関委任事務の廃止を始めとする第一次分権改革の中核



『自治・分権再考—地方自治を志す人たちへ』  
西尾勝／著 ぎょうせい

を担われたほか、第30次地方制度調査会会長等を歴任され、平成期における地方分権の進展に大きな役割を果たされた先生です。このようなご紹介をすると、書籍も難解なのではないかと身構える方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、本書は、全国各地で行われたセミナーにて口述された内容を記録したものであるため、初学者の方でも非常に読みやすいと思います。なおかつ、現在の地方自治制度が確立されるまでの歴史から、自治体職員の役割・心構えに至るまで、幅広く・深く学べる書籍です。皆さんも、どうしても目の前の業務に忙殺さ

れてしまうことが多いかと思いますが、時折こうした書籍を読んでみて、地方自治の意義や、自治体職員の役割について再認識できれば、きっと日々の仕事のやりがいにも良い影響があるはずです。

2冊目は、地方財政に関する書籍として、『地方交付税を考える—制度への理解と財政運営の視点』（黒田武一郎／著、ぎょうせい、2,970円）をご紹介します。著者は、旧自治省（現総務省）に入省し、地方財政制度を所掌する自治財政局長を経た後に、総務事務次官を務められた、まさに地方財政制度のエキスパートです。地方交付税や地方財政計画を始めとする地方財政制度に関する知識は、各

局における予算確保に当たっては非常に重要ですが、制度が大変複雑であり、いきなり教科書から勉強していくのはハードルが高いです。その点、本書は、地方財政制度にあまり関わりがなかった自治体職員の方が読むことも念頭に置かれていますので、読みやすいものとなっています。地方財政制度がなぜこのような複雑な制度になっているのかという点についても一つ一つ丁寧に説明されていますので、そのような疑問を持たれたことのある方にもお勧めしたいと思います。



『地方交付税を考える—制度への理解と財政運営の視点』  
黒田武一郎／著 ぎょうせい